

〔1〕 全般的事項

2023 年度の共通テスト現代文問題は、2025 年度の「新課程」における改変予想（国語 90 分、現代文 3 題、実用国語の面を強化し、図表などを交えた情報リテラシーに関する設問増など）から見て、ある程度、そこへとソフトランディングさせるための類題が出題される可能性は、ないとは言えない。また、2022 年度追試験問題では、表現力を選択式で問うための一つの工夫として、生徒の文章を修正させる設問が課されていた。こうした表現力に主眼を置いた設問が本試験でも問われる可能性も、ないとは言えない。

ただ、2020 年の「最後のセンター試験」の例が示すように、前年度と格段の傾向変化が見られない可能性も十分にある。そのいずれにしても、現代文の基礎学力は「文章の客観的読解力、問いに対する論理的思考力、一般的表現力」の 3 点であることは、揺るがない。「本文」の客観的な要点把握（マーキング）を前提として、正しい構文と本文中のキーワードに立脚した正解選択肢の特定に努めることである。

解答時間はセンター試験と同じくトータル 80 分であるが、共通テストの「新しさ」「多様さ」、すなわち量的増加と受験生各自の「不慣れ」とが前提となることを考えれば、時間の厳しさは明白であるから、センター試験であれば 75 分で解くという程度の心づもりが要求されるであろう。

〔2〕 設問解答プロセスの基本

* まずは、客観的読解（客観的根拠に基づく要点箇所のマーキング）を心掛けつつ通読する

- (1) 設問要求と傍線部を含む一文とから、**正解の構文（主-述）**を確立する
 - (2) 傍線部を含む意味段落中から、**正解に要する「KW」「心情（小説）」**もしくは「指示対象」を特定する
 - (3) 選択肢①を用いて、**選択肢の構文・構造**を調べ、上記(1)・(2)の**正解要素の配置箇所**を確認する
 - (4) 上記(3)で**特定した①の箇所**について、①～⑤で**正誤**を照合していく
 - (5) (4)で絞りこんだ**選択肢（通常 2 個）**について、さらに他の**正解要素**で確定（もしくは消去）する
- * 全選択肢共通の**パーツがあれば、正解の必須要素**であるから、その構文上の位置・内容に応じて活用する

〔3〕 共通テスト現代文特有の注意事項

- (1) **リード文・注・設問文**は、出題者からの**ヒント・メッセージ**として重視する。
- (2) 図表（絵・写真・グラフ等）・資料（短文・法令・等）・対話などは、「**本文**」をメインとして、あくまでもその具体例類（具体例・引用・比喩の類）として扱う。**具体例類は本文との関連を意識せよ**。資料付き設問は、**設問要求を考えるための「資料」**であるから、先に設問を確認しておくこと。
- (3) 対話タイプの設問では、本文のKW、設問要求、**対話の前後のつながり、選択肢の後半**を重視する。
- (4) **対比構造型**の選択肢では、メインとサブの項のうち、**メイン側の正答条件**で先に**選択肢を絞る**。（ただし、小説の「人物像の違いの説明」だけは、主人公の人物像の**正誤判定**を後に回すこと）
- (5) 「**表現の説明**」では、「**表現の種類・タイプの指摘**（～によって、～で）の箇所と、「その表現の本文中での意味・内容の説明」（…を、…が）の箇所との説明に誤りが多い。とりわけ**両者の関係の説明に誤答が多い**ので意識的に確認すること。
- (6) 「**構成の説明**」では、「**主題・結論・具体例類**」の説明に関する**正誤判定**に集中する。
- (7) 「**適当でないものを選べ**」では、**明らかな誤り**（本文との矛盾の存在）が**正解要件**である。
- (8) 本文の最終センテンスは、読解時だけでなく、最終意味段落についての設問解答時にも再確認する。
- (9) 積極的に正答要件で**選択肢を絞ったのち、2 択程度で判定が難しくなったら、述部を集中的に比較**してみるとよい。とくに理由説明では、「**選択肢の述部 → 傍線部の述部**」の確認を。
- (10) まず**選択肢①**で**選択肢全体の構成**（主語-述語、指示内容、接続関係等）を確認し、**正解を絞る**。
- (11) 一般に、**選択肢の正誤判定中に微妙であると感じられたら、無理に確定しようと固執せず「判断の留保」**を適切に行い、次の**選択肢に進む**。選択肢の途中で考え込まないこと。90 秒で解くのが原則。
- (12) 選択肢中の**共通パーツは正解の必須要件**を出題者が明示したもの。これと他の要素との関係を考える。
- (13) 連動型設問は、**必ず 1 問目を先に解き、その解答との関連を考えて 2 問目を解く**こと。
- (14) 設問は必ず前から解く。後の設問を解く際に、前の設問を解いた作業が有効となるケースがある。
- (15) 読解約 10 分（設問内の【資料】や対話、ノートなどの読みを含む）、解答約 10 分の時間配分原則を守ること。時間配分のマネージメントは反復訓練によって獲得すべき能力である。